

国際交流基金の海外拠点

国際交流基金は21カ国に23の拠点を設けています。これらの拠点を足がかりに、世界各国の在外公館、文化交流機関や日本語教育機関等と緊密に連携をとりながら、アジア、大洋州、米州、欧州、中東、アフリカ全域で、グローバルに活動を展開しています。

欧州・中東

- ① イタリア ローマ日本文化会館
- ② ドイツ ケルン日本文化会館
- ③ フランス パリ日本文化会館
- ④ 英国 ロンドン日本文化センター
- ⑤ スペイン マドリード日本文化センター
- ⑥ ハンガリー ブダペスト日本文化センター
- ⑦ ロシア 全ロシア国立外国文献図書館
「国際交流基金」文化事業部
(モスクワ日本文化センター)
- ⑧ エジプト カイロ日本文化センター

日本

本部(東京)

日本語国際センター(埼玉)

関西国際センター(大阪)

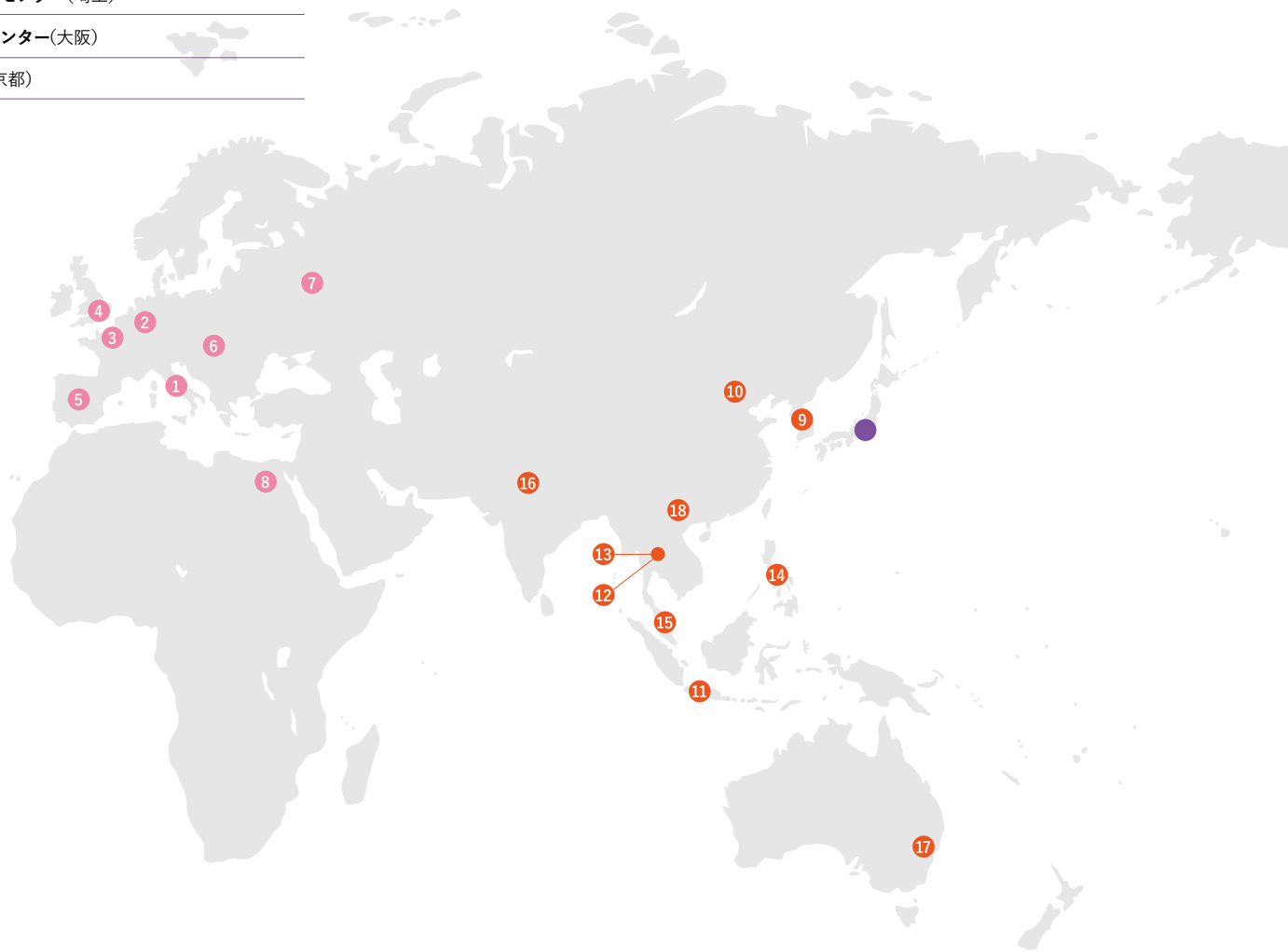
京都支部(京都)

アジア・大洋州

- ⑨ 韓国 ソウル日本文化センター
- ⑩ 中国 北京日本文化センター
- ⑪ インドネシア ジャカルタ日本文化センター
- ⑫ タイ 東南アジア総局
- ⑬ バンコク日本文化センター
- ⑭ フィリピン マニラ日本文化センター
- ⑮ マレーシア クアラルンプール
日本文化センター
- ⑯ インド ニューデリー日本文化センター
- ⑰ オーストラリア シドニー日本文化センター
- ⑱ ベトナム ベトナム日本文化交流センター

米州

- ⑲ カナダ トロント日本文化センター
- ⑳ 米国 ニューヨーク日本文化センター
ニューヨーク日米センター
- ㉑ ロサンゼルス日本文化センター
- ㉒ メキシコ メキシコ日本文化センター
- ㉓ ブラジル サンパウロ日本文化センター



2009年度 主な国・地域別の取り組み

国際交流基金は外交政策や外交関係を踏まえながら、各国・地域の状況に即した国際文化交流を実施しています。2009年度は、交流を強化すべき国として、日本にとって重要な隣国である中国、韓国、米国を位置づけたほか、「日メコン交流年」や「日本・ドナウ交流年」といった周年事業など、外交上の必要性を考慮した事業を展開しました。

中国

中国の国民に日本の姿を正しく理解してもらい、また国際社会の主要課題への対応という観点からも、未来志向的な日中関係の構築が重要です。国際交流基金では未来を担う若い世代の日本理解を促進するため、日中交流センター事業 (P.16参照) を中心に中国の高校生の長期招へいや、地方都市での日本文化紹介事業などを実施しました。また、北京日本学研究中心を中心とした日本研究の推進や、中国の研究者や知識人の招へい、日中韓にわたる交流などの知的交流事業も実施しました。

韓国

日韓交流事業を中長期的に強化することをめざして立案した「日韓文化交流5カ年計画」(2006～2010年)に沿って、日韓共通の社会的課題について両国のNPOがともに学び合える交流事業や、地方における日本文化紹介事業、若者に向けた事業などを展開しました。ソウル日本文化センター (P.34参照) を若者の町・新村エリアに移転し、より広い層の人々に働きかけていきます。

アジア

日メコン交流年として、日本とメコン川流域各国(ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ)で官民を挙げて数多くの文化交流事業が行われましたが、国際交流基金は現代美術展「TWIST and SHOUT: Contemporary Art from Japan」(タイ P.12参照)をはじめ幅広く日本文化を紹介し、この地域と日本との交流を深めました。また、2007年に開始した「21世紀東アジア青少年大交流計画(JENESYSプログラム)」*を2009年にも実施、日本語教師や日本語学習者の派遣・招へい (P.20参照)、若手知識人や実務家、若手の芸術家・デザイナーの招へい事業など、将来、各分野でリーダーとしての活躍が期待される人材の育成をめざした交流事業を行いました。

*大規模な青少年交流事業を通じてアジアの強固な連帯の基礎を強化することを目的として、日本政府の拠出金によりASEANを中心とするアジア・大洋州の諸国から青少年を日本に招く事業。国際交流基金は2007年の開始時からこの事業の一翼を担っています。

米国

日米センター事業(知的交流・市民交流事業)をはじめ、日本語教育、日本研究、文化芸術交流の分野でさまざまな事業を展開しました。特に米国における若手知日層の育成を目的とした米国ジャーナリズム専攻大学院生招へい事業 (P.31参照) を実施したほか、日本語教育に対する理解と普及を促進する取り組み(米国日本語教育関係者グループ招へいなど)、米国の文化芸術機関等と協力し、主要都市で質の高い芸術紹介を行う事業などを実施しました。

欧州

スペインではマドリード市との協定・協力によりマドリード日本文化センター (P.39参照) を開設し、活動を開始しました。これを機に全国規模の日本語教師会が設立されるなど、日本文化への関心が高まっています。また、ドナウ川流域4カ国(オーストリア、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア)を対象とする「日本・ドナウ交流年2009」に協力し、浮世絵版画、和菓子、茶道などの生活文化の紹介事業、「WA-現代日本のデザインと調和の精神」展、新内節浄瑠璃と八王子車人形公演、東欧巡回映画祭、企業文化セミナー等を主催して、日本文化に触れることの少ない地域での日本理解の促進に寄与しました。

